

2年 算数科	人間ペッパーちゃんになって、たし算の筆算をやっつけよう	2年③
目標	十の位に繰り上がりのあるたし算の筆算の計算の仕方がわかる。(数学的な考え方)	
使用した ICT 機器類・教具等	かぞえ棒 付箋 ホワイトボード	
思考ツール・プログラミング	フローチャート	

◆プログラミング的思考とのつながり

- ・たし算の筆算のフローチャートをつくっていくなかで手順を可視化することを通して、論理的思考力を高める。
- ・繰り上がりがある場合とない場合の場合分け(分岐)を表現することで、論理的に考える。

◆授業の実際

1 「64+18」の計算方法を説明しよう

○前時で考えたフローチャートレベル2を使って、計算の仕方を説明することができた。

2 校長先生問題を解こう。

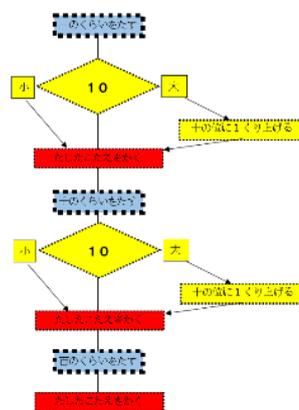
みんなが読書のごほうびのしおりを2回もらえるように赤81こ、青81こ作りたと思います。しおりは全部で何こ作ればよいでしょう。

○「100を超えるよ」という声上がり、フローチャートレベル2では計算はできないことに気づいた。

○自分たちで正しく計算できる方法で計算してみることにし、筆算やかぞえ棒を使って計算の方法を考え、答えを出して発表した。

3 グループでフローチャート3を作ろう。

○4つのグループに分かれ、ホワイトボードを使って話し合い、考えをまとめていった。前時までの一の位の計算の仕方のフローチャートはできているため、その続きの十の位を考えるようにした。



4 4つのグループが作ったフローチャートについて話し合い、まとめていこう。

○話し合いの結果、十の位をたして繰り上がりがある場合は百の位に書くことを理解した。ただ、10と書くところを100にしていたことについては、10であることを確認し、たし算の筆算のレベル3のフローチャート3を完成することができた。



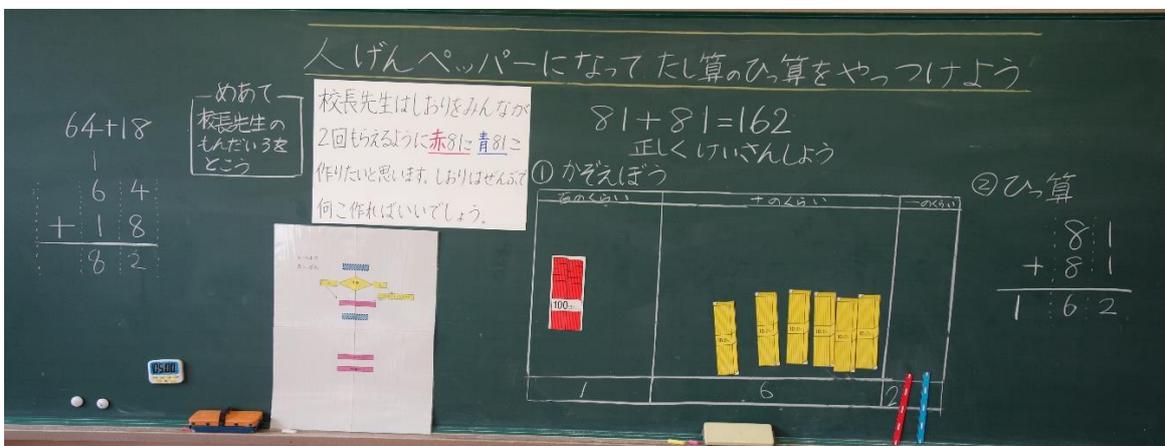
[かぞえ棒を使って計算方法を考える]



[グループでフローチャートを作る]



[みんなの考えを発表し合って改善]



◆実践を通して

- ・2位数+2位数のフローチャートをつくることを通して、筆算の計算方法の手順を可視化し、論理的に考えて答えを出していくことができた。
- ・初めてフローチャートをつくる時には、意味を理解するのに時間を要したが、本時では、前時に倣いながら子どもたち自身で論理的に考えていくことができた。